

PRESTO W50

100Lのガラス反応容器で
+100 °C から +20 °C間を冷却運転

目的

このケーススタディーでは100Lガラス反応容器と接続されたPRESTO W50の冷却能力試験を行います。この PRESTO W50 と反応容器は2m長のメタルチューブ2本を介して接続されており、+100 °C から +20 °Cまで冷却するよう設定されています。

使用環境

室温	+20 °C
湿度	45 %
電圧	400 V / 50 Hz

試験環境

ユラボ装置	PRESTO W50
冷却能力	+20 °C 7.5 kW 0 °C 6.5 kW -20 °C 3.0 kW
加熱能力	6 kW
帯域制限	無し
流圧	0.5 bar
バスリキッド	サーマルHL60
反応容器	100L ガラス反応容器 (ブヒグラス) (サーマル HL60 80 L 入)
ジャケット容量	30 L
温度制御	外部制御 (ICC)

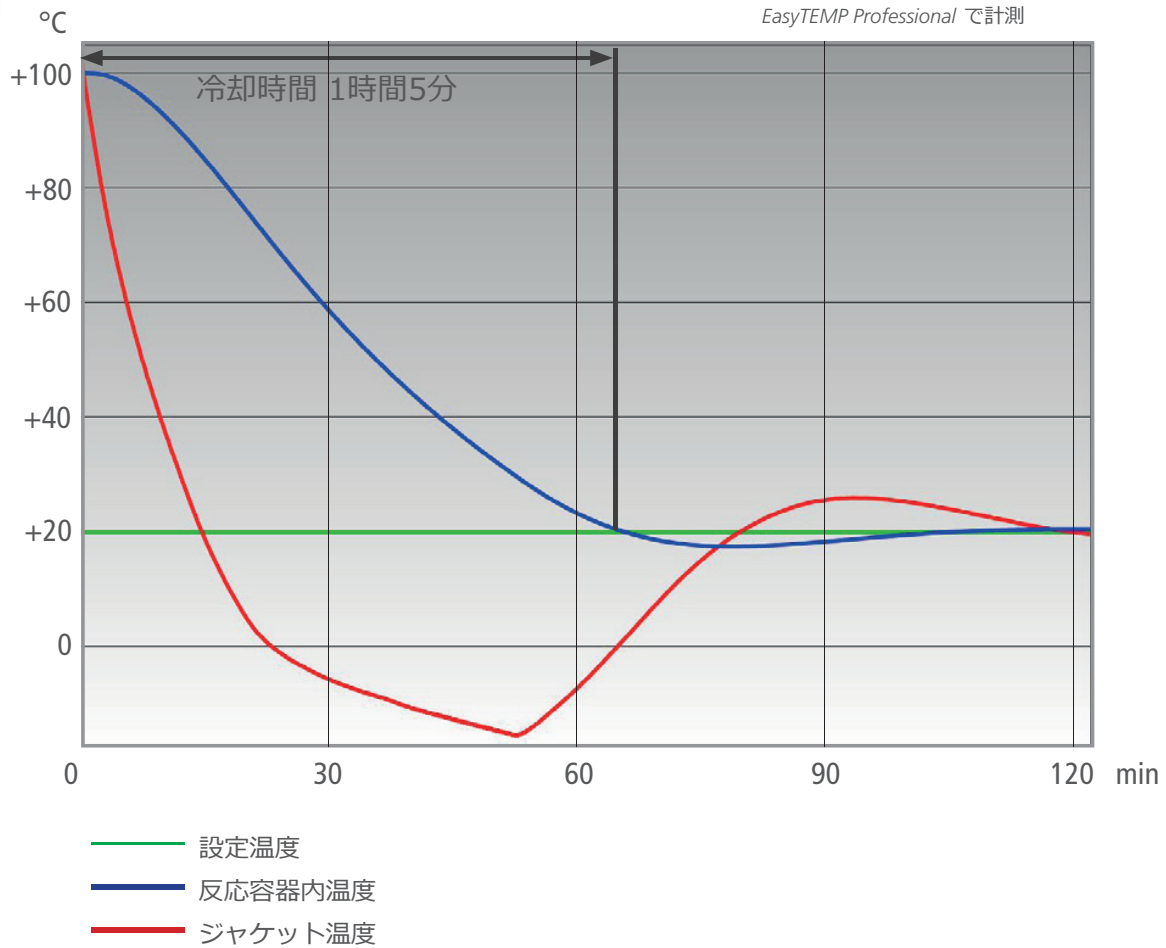
制御パラメーター

Xp	0.2 K
Tn	695 s
Tv	85 s
Xpu	15 K



試験結果

PRESTO W50は設定下限温度を超えずに +100 °C から +20 °C まで1時間5分で到達。



特徴

弊社の様々なアクセサリーを使うことが可能。
例えばM+Rアダプターを使えば追加温度情報を表示および記録することができます。



特徴

弊社の無料ソフトウェア EasyTEMP を使うことによってパソコンで装置を操作したり温度曲線をグラフを用いて確認することができます。

EasyTEMP

